

## 男女と一緒に育児をする社会へ！

Towards a society where men and women raise children together!

グループ名：チーム A

学生氏名：秋山祥彦 伊藤直弥 石井美羽 外間千尋

指導教員：宮本悟

所属先：中央大学 経済学部 宮本ゼミ

日本語アブストラクト：私たちは育児休業における男女の差に注目し、現代の日本において凝り固まった意識を改革するために絵本を創作する。

キーワード：ジェンダー, 育児休業

### 1. 日本のジェンダーロールの現状

育児・介護休業法の改正により、日本の育児休業制度は 2022 年 10 月 1 日から一定の改善がはかられた。具体的には、産後 8 週間以内に 4 週間を限度として 2 回に分けて育児休業(以下、育休)をとることが出来る産後パパ育休制度、またそれまでに原則 1 回しか取得することが出来なかった育休を分割で取得できるようになるなどの進歩を遂げた。厚生労働省の 2023 年度「雇用均等基本調査」によれば、男性育休の取得率は、2022 年度が 24.2% だったのに対し、13.7 ポイント上昇した 37.9% であった。これは前年度と比べると比較的高い数字であるということが言えるかもしれない。しかしながら、このような制度があってもなおまだ 37.9% であるとも考えることが出来る。2025 年 4 月 1 日からも子の看護休暇の見直しや残業免除の対象が拡大するなどの内容が含まれた育児・介護休業法が段階的に施行されることが決定しているが、それでもまだ確実に育休取得率が上がるかについては疑問が残る。私たちがそう感じてしまうのは、会社や家庭にはびこる意識の問題が大きいだろう。内閣府の 2023 年度「男女共同参画に関する世論調査」によれば、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに賛成、どちらかといえば賛成とする人は

全体で 33.5% おり、いまなおジェンダーロールに関する意識は改善されていない。阿部正浩(2005)は、日本の女性は家庭を守り、男性は働きに出るという風習を変えるための解決策を提案していたが、私たちも雰囲気を変えるための提案をする。

### 2. 男性が育休を取りやすい社会へ

前述した通り、現代の日本では男性が育児や家事をすることや育休を取得するということが当たり前の社会にはなっていない。これは私たちが幼い頃からメディアを通して、育児や家事は女性が行うものであるという偏見を植え付けられたからであると私たちは考えた。男性が育休を取得し、育児や家事を行うことが一般的である社会にするために、私たちは絵本を通して男性も女性も育児や家事をするという当たり前の考えを未来の子供たちに芽生えさせることを提案する。

### 3. 絵本を通じた意識改革

私たち自身で絵本を創作し、幼稚園や保育園を対象に読み聞かせを行う。創作する絵本のタイトルは「おやすみじゃないよ、育休だよ!」とし、内容は、毎日仕事で忙しく子供と過ごす時間をあまり作ることが出来ない両親と、そん

な両親と遊びたくてたまらない主人公を中心に、育休が単なる休みではないという説明を交えながら、家族間の絆が深まる様子を描く。

#### 4. 結論

現代の日本では、育休取得率が37.9%と他の国々と比べると比較的少ない。これを変えるために政府は様々な施策を行ってきたが、十分な成果は得られていない。この理由として、女性が家事や育児をし、男性は仕事をするという固定観念が大きいと考えた。現状を変えるために、私たちは次世代の子供たちへ、絵本を通して意識改革を行う。しかし、子供たちがこの絵本を読んで意識が変わり、その子供たちが大人になる次世代の日本の社会が変わったとしても、今の日本はすぐに変わるわけではない。そのため保育園や幼稚園を超えて、今の親世代の意識改革のためには、家庭でも親しまれる絵本にしなければいけないだろう。

#### 7. 参考文献

厚生労働省 (2024) 育児休業特設サイト

[育児休業特設サイト | 厚生労働省](#)

2024年10月29日閲覧

厚生労働省 (2023) 「令和5年度雇用均等基本調査」

[令和5年度雇用均等基本調査 | 厚生労働省](#)

2024年10月29日閲覧

内閣府 (2023) 「男女共同参画社会に関する世論調査 (令和4年11月調査)」概略版

[「男女共同参画社会に関する世論調査 \(令和4年11月調査\)」概略版](#)

2024年10月29日閲覧

阿部正浩 (2005) 「男女の雇用格差と賃金格差」

[Abe, M. \(2005\) Employment Difference and Wage Disparities.pdf \(bristol.ac.uk\)](#)

2024年8月2日閲覧

中里英樹 (2019) 「ノルウェーとスウェーデンにおける「パパ・クオータ」の意義 - 日本との比較を踏まえて」『月刊 DIO』2019年3月号

[dio345-3.pdf](#)

2024年9月19日閲覧